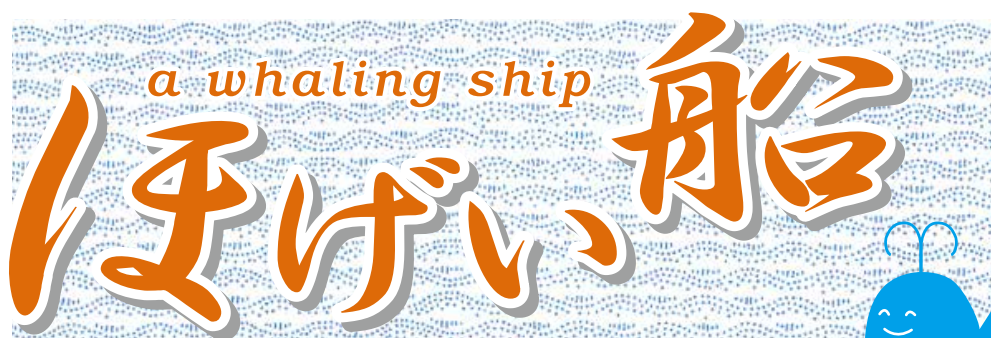




基本理念
私達は心の
こもった医療を
行い、地域に信頼
される病院とな
ることを目指し
ます。
独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

— 高知病院は 不滅です。 —



NHO 高知病院 院長
大串 文隆

新年明けましておめでとうございます。新しい年を迎え職員の皆さんも気持ちも新たに令和2年を迎えたことと思います。今年の漢字2019は「令」になりました。新天皇即位による新元号決定が新たな時代の幕開けをつげた1年となりました。「令」という漢字一字が持つ明るい時代を願う国民の思いが集約されたことや「令和」は日本の古典からはじめて出典された元号であり、日本の伝統文化を再認識する機会となったことなどが選ばれた理由とされています。2019年厚労省は地域医療構想に沿って過剰とされる病床数の削減を踏まえ424公的病院名を公表し再編要請を行い、高知県でも5病院があげられています。国立病院機構でも全国で31病院、中国四国で7病院が公表されました。選考方法に問題があるといわれていますが、データに基づいており現実的にはこの方向で進んでいくことが想定されます。過剰病床の削減は国にとっても医療費抑制の観点から喫緊の課題です。高知病院も指名されるのではないかと心配しておりましたが、地域への貢献が認められ今回は大丈夫でした。地域医療構想による病床削減の試みは今回のみで終わるものではありません。病床削減のため病院評価は継続されて行われるものと思います。2019年は高知病院にとっては激動の年でした。3月には突然、放射線医師が退職、異動でいなくなり、診断医の確保に苦労しました。高知大学に非常勤の医師派遣をお願いし、個人的に知り合いの医師に依頼しなんとか1週間診断医が常駐している状態にすることができました。また、四国がんセンター経由で愛媛大学の読影の外部組織との関係を作りすべての症例について読影所見がつくようにして、放射線科の問題は解決しました。8月には麻酔科医師が2名退職し手術ができなくなるような状況になりました。徳島

大学田中麻酔科教授にお願いして大きな協力を得ることができ、細木病院の堀見院長に相談すると細木病院の医師を週1日派遣していただけるようになりました。加えて当然多額の費用が発生しましたがフリーランスのグループにもお願いしこの危機を乗り越えることができました。開院以来当院は医師派遣を高知大学、徳島大学に依頼しておりましたが最近どの診療科も医師確保が厳しく派遣できる人材がいなくて病院医師職員数の減少は止まりません。新臨床研修制度が大きく影響してきているようです。病院にとってのグッドニュースは徳島大学呼吸器膠原病内科西岡安彦教授が篠原先生転勤後空席になっていた臨床研究部部長を派遣してくれるようになったことです。今後も医師確保が病院運営上最も重要な課題となることは間違いなさそうです。2019年の流行語大賞はone teamでしたが高知病院も今まで以上にone teamとなり協力して病院を次の世代に引き継いでいかねばなりません。独立行政法人化となったあとも高知病院はつぶれることなく多額の負債を返済してまいりました。先山先生、福田先生はじめ有能な幹部がたくさんおりますのでこれからの高知病院の未来は明るいと思っています。長嶋選手の引退スピーチではありませんが我が高知病院は永久に不滅です。この3月に私も退官しますので今回のほげい船が私の原稿の最後となります。年4回発刊してきましたので、原稿を書く当番がすぐにまわってきておりました。いつも病院の状況を考えながら職員の皆さんに高知病院の運営に積極的に参加してもらえよう内容で書いてきました。最後になりますが、高知病院の職員の皆様と、高知病院の更なる発展を祈念しております。本当に長い間多大なるご協力をいただき心より感謝申し上げます。

年男 としおとこ



小児科医師 佐藤 哲也

新年あけましておめでとうございます。

高知病院に2回目の着任から1年7カ月が経ち、周囲の方々にサポートして頂きながら無事に働く事が出来ています。今年で4回目の年男を迎えました。

本年の干支であるねずみは、多産で強い繁殖力を持つことから子孫繁栄の象徴とされており、また「寝ず身」、「根積み」に通じる事から、働き者で財を蓄えるイメージがあるようです。子供の成長に関わり、時には当直で「寝ず身」の状態になる自分は、そういう意味では小児科医が適職(?)であったのかもしれませんが。

4回目の年男という事で人生の折り返し地点も過ぎており、フルマラソンで言えば30km地点くらいでしょうか。以前テレビのマラソン中継で解説者が、練習で何回も42.195km走っていても、本番の初マラソンでは30km以降は練習とは全く感覚が違い、思ったペースで走れなくなる選手が多いと話していました。人生は練習のない一発勝負であり、残りの人生で想定外の事が起こるかもしれませんが、節目の年男の機会に、残りの人生の距離をどう走っていくのか改めて考えてみる良い機会なのではないかと思います。

注射針の針先もだんだん見づらくなり、体力の衰えも日々感じる所ではありますが、ねずみのようにコツコツと働き、仕事の財となるような新たな知識を少しずつ蓄えながら、医療の進歩に遅れずついていけるように頑張っていきたいと思います。本年もよろしくお願い致します。

年女 としおんな



臨床検査技師 羽原 幸輝

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

高知病院に勤務して早くも2年目になろうとしています。私は広島県出身で、高知県には一度だけ旅行で来ただけで、最初は慣れない土地で、初めての仕事で右も左もわからず不安でしたが、優しい上司や先輩方から高知県の美味しい食べ物屋さんや人気のスポットなど、また仕事では熱心にご指導していただいたおかげで、少しずつではありますが、様々な面で成長できていると思います。

そして今年は私も24歳の年女になります。ねずみ年には、増えるという意味合いや、新しい生命や物事が始まるという意味があります。私もねずみ年のねずみのように、病院内での多職種の方とのコミュニケーションを増やし、たくさんの知識を吸収して自分の成長に繋げるとともに、新しい資格や仕事にもチャレンジして今まで以上に患者さんの医療に携われるように精一杯精進して参ります。

まだまだ未熟ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



看護師 堀内 小春

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

私は昨年から新人ナースのプリセプターとして、直接後輩のサポートをしています。後輩をサポートする中で、自分が理解していてもそれを言葉にして説明することの難しさや、まだまだ知識が足りないことを再認識するなど学ぶことが多くありました。

今年はプリセプターの経験や3年間看護する中で学んだことを活かし、様々なことに「挑戦」する1年にしたいと思っています。

今年の干支である「ねずみ」は真面目にコツコツ働くというイメージがあります。私も子年生まれとしてコツコツ努力し、一人一人の患者様に対して丁寧な看護を行い、周りの方々から信頼を得られるような看護師を目指していきます。

看護学生時代と就職してからの3年間、計6年間この高知病院でお世話になっています。この6年間の間に何か恩返しができたでしょうか…。これからお世話になった高知病院に恩返しができるよう日々精進していきます。

知識もまだ浅く未熟者ですが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



財務管理係長 宮地 貴広

新年あけましておめでとうございます。

本年は、4回目の「年男」を迎え、国立病院に就職してから29年目が経とうとしています。今年の干支の子年には、増えるという意味合いや、新しい生命や物事が始まるという意味があります。仕事面で新しいことを始めるにはいい機会ではないかと思っています。何か新しいことを始めるためにはエネルギーが必要ですが、健康面で不安があります。運動不足で体力がありません。

体重ですが20代の頃から比べて10kg以上増加しており事務所がある3階までの階段の上り下りで息が切れてしまうことがあるので、ダイエットに挑戦しようと考えています。昨年と同じことを考えていたのですが具体的に何をするか決めてなかったので実行できませんでした。だけど、今年は違います。友人と社会人シニアサッカーを始める約束をしました。

今年中に必ずダイエットを成功させたいです。

来年の今頃はスリムになった自分が目に浮かびます。

最後になりますが、去年はたくさんの方々大変お世話になりました。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



診療科紹介（耳鼻咽喉科）



耳鼻咽喉科医師
中野 誠一

耳鼻科は、耳と鼻を診ているだけの科と思われがちですが、首より上で脳・眼・歯・頸椎を除く幅広い疾患の治療を担当しており、耳鼻咽喉科・頭頸部外科という格好良い呼び方もあるにはあります。聴覚、嗅覚、味覚、平衡覚などの感覚器、また呼吸、嚥下、発声など生命維持や生活の質向上に不可欠な器官を扱っています。対象年齢も新生児、小児、成人、高齢者と全ての年代にわたっています。

治療対象となる症状は難聴、耳鳴、耳だれ、めまい、鼻閉、鼻汁、鼻出血、嗅覚障害、咽頭痛、咽喉頭異常感症、味覚障害、口や鼻のできもの、嚥下困難、発声障害、いびき、無呼吸、顔面麻痺、頸部腫瘍など多彩であり、主な対象疾患としては滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎、急性中耳炎、突発性難聴、メニエール病、良性発作性頭位めまい症、顔面神経麻痺、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、急性扁桃炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープ、嚥下障害、頸部リンパ節腫脹、唾液腺腫瘍、さらに頭頸部領域の癌などとなります。

地域の中核病院として、最先端治療を取り入れつ

つ、耳鼻咽喉科のどの分野においても標準的な治療を提供できるよう努力しています。また当院は地域における二次総合病院であるため、近隣の医院の先生方と連携を深め、精査が必要な患者様、入院加療が必要な患者様、手術が必要な患者様をご紹介いただき、積極的に受け入れ精査加療をしております。耳鼻咽喉科のほとんどの疾患に対応可能ですが、さらに高度の医療を必要とすると判断した場合は、速やかに高知大学病院や高知医療センター、高知赤十字病院などに紹介させていただく連携も図っています。

耳鼻科の外来は平日午前中だけではありませんが、毎日2診体制で行っております。上記症状でお困りの方がいらっしゃいましたら、是非当科外来の受診をお勧めください。



国立病院機構QC活動報告

全国優秀賞を受賞しました

グループでシェアしてみた(事故発生時対応動画を作成)

.....チーム安全分けあい隊メンバー

医療安全管理係長
山本 三恵

国立病院機構では、「できることから始めよう!」をスローガンに「国立病院機構 QC 活動 奨励表彰」制度を創設し、医療サービス、経営改善、医療安全というテーマについて、職員より創意工夫を凝らした取り組みを募集、表彰されています。

このたび、チーム安全分けあい隊が、テーマ「グループでシェアしてみた」の活動報告を提出し、中国四国グループ内で最優秀賞をいただき、国立病院機構本部で表彰いただきました。そして、11月8日に開催された第73回国立病院総合医学会のQC活動奨励表彰で全国優秀賞をいただきました。受賞に至るまで多くの方々にご支援を賜り大変感謝しております。

「グループでシェアしてみた」の活動内容は『「事故発生時の対応DVD」を作成し、院内で研修を行い、良い結果が得られました。そこで、当院だけでなく中国四国グループでもDVDを活用できないか呼びかけを行いました。希望のあった22施設に配布し、研修やマニュアル周知に活用していただきました。DVD視聴総人数は初年度で686名。視聴後の意見には肯定的な回答が多く、特に医療安全管理係長からは「医療安全管理マニュアルにある「事故発生時の対応」がDVDで実際に見れて良かった」「事故後の対応を実際に見ることで勉強になった」「リアルであった」「知らなかったマスコミ対応も勉強になっ

た」「スタッフ教育に活用できると感じた」などの良い評価を受けました』です。

この活動で最も大変だったのは、シナリオ作成です。事故発生時のマニュアルを見ながら何ヶ月もかけて作成しました。重大な事故が発生した場合、誰が何を、どのように連絡・報告・相談・指示するのかをイメージしながら、医療安全管理委員会メンバー全員ができる限り発言し、普段の発言とかけ離れないように注意しました。そのためか、撮影はスムーズに行えました。シナリオの言葉や、発言内容に修正もなく、シナリオどおり演じていただきました。もちろん素人ですので、棒読みや、緊迫感がでていますが、そこはご愛敬です。

今回は自作のDVDをグループ施設で活用していただき好評評価を受けました。このように、活用できる物、システム、工夫は当院だけでなく、グループや機構全体でシェアすることで、共に医療安全の底上げができればと願っています。



国立病院機構QC活動報告

QC活動奨励表彰式を終えて

災害時の分娩介助

4階南病棟

助産師
土居 瑞稀

令和元年度 QC 活動において、4 階南病棟は「災害時の分娩介助」というテーマで活動を行い中国四国グループ『優秀賞』を受賞しました。

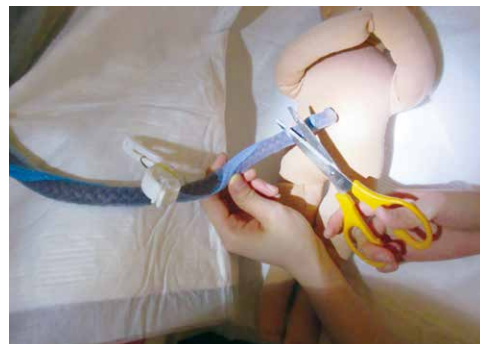
10 月 21 日、国立病院機構本部で令和元年度 QC 活動奨励表彰式が開催され、中四国・九州ブロックの全 9 施設、12 チームが表彰を受けました。



今後必ず発生すると予測されている南海トラフ地震の発生率は年々上昇しています。今回の

取り組みでは、分娩介助という場面に特化して災害時を想定したシミュレーションを行いました。分娩室は蛍光灯が消えると真っ暗です。産婦の顔も見えない、手元も見えない状況での分娩介助は、物品の位置もわかりづらく母児の状態を把握することも難しいと感じました。今回、電気の供給は遮断された状況で、限られた人員や物品をどのように活用すれば母児にとって安全な分娩介助ができるかディスカッションしながらシミュレーションを行う事ができ、

災害時の分娩介助に最低限必要である物と代用できる物を一部抜粋リストにまとめることができました。



また、真っ暗な分娩室で行ったことで緊張感も伴い、スタッフの災害に対する意識も高めることができました。今後も継続してシミュレーションを行い、災害に対する意識を病棟全体で高めていきたいと思っています。



国立病院機構QC活動報告

QC活動奨励表彰（入賞）

『ボーっと配ってんじゃねーよ!～配薬間違いをなくすための注意喚起カード～』

.....4階北病棟 チーム名:ミヨちゃんに叱られる

看護師
平田 京子

この度、令和元年度国立病院機構 QC 活動において、当病棟での取り組みが中国四国グループで入賞しました。ちなみに、チーム名の“ミヨちゃん”というのは、当病棟の愛すべき看護師長の名前です。

今回の取り組みの理由としては、病棟看護師が配薬する内服薬に関するインシデントを減らしたいという思いがありました。当病棟では、高齢の患者さんも増え、緊急入院や手術といった環境や身体的な変化から内服薬の自己管理が難しい状況となり、看護師が管理することが増えてきていました。また、後発医薬品の採用で薬剤名が変更されたり、1回用量が増えるなど、配薬業務は複雑化しています。煩雑な業務の中、確認不足や思い込みによって配薬間違いが発生していることが問題でした。

そこで、以下のようなことをチームで取り組みました。まず、確実な確認行動が意識的にできるためにどうすべきかということについて話し合いました。そこで、用法・用量が複雑な薬剤（例：「1回2錠」「朝のみ2錠」など）に対しては、注意喚起カードを作成し、薬袋につけることにしました。カードには「指さし・声出し確認しましたか?」「朝・昼・夕 ○錠・包/回」という文章と、当科の医師が指さしをしているポーズの写真を入れました。これにより、薬を取りだしたときに注意喚起となり、気をつけようという意識を持つことができるのではないかと考えました。作成した

カードは、運用方法を決めて、スタッフへ周知してから1年間実施しました。結果、カードがきちんとつけられていた内服薬については、用法・用量の配薬間違いは発生しませんでした。

スタッフからは「カードによって、これは1回1錠で

はないという強調になった」「視覚的にわかりやすい」「処方箋も必ず確認するが、さらに注意して準備できた」といった意見があり、カードを使用することで、より正しい確認行動につながったことがわかりました。

今後もカードがマンネリ化しないよう工夫したり、与薬を確実にできるための取り組みを続けていきたいと思っています。



国立病院機構QC活動報告

QC活動奨励表彰(入賞)

整形外科使用器械の教材にタブレットを使用して

手術室

看護師
西岡 伸高

令和元年度国立病院機構 QC 活動奨励表彰において「整形外科使用器械の教材にタブレットを使用して」で中国四国グループで入賞しましたので報告します。

当院の手術室において平成 30 年度は年間 2,211 件、1 日平均 9.1 件の手術が実施されており手術件数は年々増加傾向にあります。その中でも、整形外科においては整形外科医師が交代したことで手術症例が変化し、手術件数が大幅に増加しました。

整形外科の手術では使用する器械の種類が症例毎に変わることに加え、メーカーの違いもあることから、器械の数は膨大なものになります。また、骨折などの緊急手術の場合、器械が手術当日に納品となり、器械の確認を行うことができない状況が多々あります。このような状況を改善するためにタブレットを用いての学習を行うことにしました。

タブレットを使用するメリットは従来の紙ベースの手順書より、音声や映像があることで手順をイメージしやすいことにあります。また、種類ごとに動画を保存できるため、見たい動画をすぐに見ることができます。タブレットでの学習を開始してからは手術室のスタッフからは録画した動画を再度視聴できるため、手術の予習が場所や時間を選ばずに学習しやすくなったと好評です。

今後は整形外科以外の自動縫合器・吻合器の取り扱い方法や、各種ME機器の取り扱い方法などを動画撮影し、教材として使用していく予定です。また、Aライン作成方法など、当院の物品を使用した動画を撮影し、新人教育のツールとしてタブレットを効果的に使用していきたいと考えています。



感染制御認定薬剤師を 習得して



薬剤師
西川 祐貴



本年、日本病院薬剤師会認定の感染制御認定薬剤師の資格を習得しました。病院薬剤師約6万人のうち、認定者は現在1,044名でその一員になりました。感染制御薬剤師は、感染制御に関する高度な知識、技術、実践能力により、感染制御を通じて患者が安心・安全で適切な治療を受けるために必要な環境の提供に貢献するとともに、感染症治療に関わる薬物療法の適切かつ安全な遂行に寄与することを理念とし、設立されました。

この資格をどの様に活かしていくかというと、たとえば各部署で使用される次亜塩素酸ナトリウム。当然ですが、適切な濃度でないと効果を発揮しません。また、木質箇所の

消毒には向いてなく（セルロースで容易に不活化）、その場合はアルコールで代用する場合があります。これらの薬に関することは院内のICTラウンドで薬剤師の目線で提案させていただきますので、温かく迎え入れてもらえれば幸いです。

また昨年よりAST（抗菌薬適正使用支援チーム）も発足しました。抗菌薬を適切に使用し、耐性菌を増やさない活動が、結果的に院内感染の制御に繋がります。抗菌薬の相談はASTがいつでも受けますので、連絡をお待ちしています。

病院の感染対策は、各部署の協力が必要不可欠となりますが、岩原ICDを始め、ICN、臨床検査技師、薬剤師の4職種が専門を活かし感染制御に取り組んでおり、まさに昨年の流行語大賞『One Team』となっています。今回の資格習得が、One TeamのTeam力アップの一助になればと思います。



職員の異動

10月2日付～1月1日付の
人事異動（常勤）



採用

▶ R2.1.1

呼吸器内科レジデント 安宅 克博

退職

▶ R1.11.30

栄養士

中井 健太

▶ R1.12.31

呼吸器内科医師

保育士

森田 優

恩地 真由

感染管理室だより

インフルエンザの感染対策

副看護師長
河村 ひとみ

本格的な冬がやってきました。空気が乾燥し、気温が低くなるこの時期は、インフルエンザウイルスが活動しやすい時期です。気温が低くなり体温が下がることで、免疫力が下がります。また空気の乾燥により、粘液でウイルスの侵入を防ぐ鼻やのどの粘膜が傷みやすくなり、ウイルス感染を起こしやすくなります。

国立感染症研究所¹⁾では、今シーズンのインフルエンザは例年よりやや早く増加している傾向にあると報告されています。高知県感染症発生動向調査2020年第1週（12月30日～1月5日）²⁾でも、「県全域、幡多、中央西、須崎、安芸で増加し、県全域及び全ての保健所管内で注意報値を超えています」と報告されています。

インフルエンザの主な感染経路は、咳やくしゃみのときに発生する飛沫による飛沫感染です。また、咳やくしゃみのときに発生した飛沫が付着した環境や手からの接触感染もあります。そのため、感染予防のため咳エチケットと手洗いが重要です。

インフルエンザ流行期に入り患者数は増加していますので、以下のことに心がけて、インフルエンザの予防をしてください。

●咳エチケット

咳やくしゃみをするときは、他の人に向かって発しないようにしましょう。

咳やくしゃみがあるときは、マスクをしましょう（口と鼻をしっかりと覆っておくことが大切です）。

手で咳やくしゃみを受け止めたときは、すぐに手を洗いましょう。

●手洗い

感染予防のためには大変重要です。こまめに手洗い（アルコール手指消毒薬も可）をしましょう。

●その他

バランスの良い食事や十分な睡眠、休養をとり、身体の抵抗力を高め体調を整えましょう。

部屋の湿度は 50 ～ 60% に保つと効果的です。

1) 国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/flu-idwrc.html>（令和2年1月15日閲覧）

2) 高知県感染症発生動向調査2020年第1週（12月30日～1月5日） https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/files/2014022600931/file_2020183112826_1.pdf（令和2年1月15日閲覧）

医療安全管理室だより

ヒューマンエラーについて

医療安全管理係長
山本 三恵

医療安全の目指すところは、「医療現場におけるエラーを防ぎ事故を防止すること」です。人間は誰でも間違えるという特性を持っています。しかし間違いは防ぐことができます。そのために、間違いにくいシステムを構築することが重要とされています。

医療安全の古典的な考え方は、「一人前のプロはエラーをしない」「初歩的なミスだ」「精神がたるんでいる」「注意力が足りない」等とインシデントの原因が人の質に焦点を当てた考え方でした。これらの解決策といえば、人間の力に頼るだけの「注意します」「ダブルチェックします」「確認回数を増やします」「スタッフに周知します」が立案され、結果的には同じインシデントが繰り返されていました。しかし、現代の考え方は、「エラーを科学的に理解する」です。

ヒューマンエラーとは人間側の要因と環境の要因から引き起こされた人間の行動であり、その行動がある許容範囲から外れたものと言われています。この人間の行動とはどうやって起こされるのかというと、心理学者コフカによると「人は自分の理解した世界（心理的空間）に基づいて行動を決定している」と言われています。この考え方では、エラーを起こした本人は目に見える物を見たいように見て判断し、それが正しい

と思って行動しているということです。

医療安全の研修で、人間の不確かさを体験してもらうために、動画を見ていただいています。内容は手品をしている間に、出演者が服を着替え、背景の布の色を変えるといったものです。動画を見てもらう前には「手品をしますが、おかしいところはどこでしょうか」と声かけし、少し手品に集中しやすくなるように誘導します。そして動画を見終わったときに、どこがおかしかったですかと質問すると、8～9割の人が「トランプのカードが…」と答えます。服や背景が変わったのを目にしても、それを認識していません。これこそ、見たい物しか見ないという人間の特性でしょう。

医療安全ではこのように、インシデントの原因は何かを分析し、エラーを科学的に理解することに力を注いでいます。みなさんも「間違えたのはあの人だから」ではなく、「何が人を大丈夫と判断させたのか」に焦点を当てて物事を捉えていただきたいと切に願っています。



看護学校だより

クリスマス会を開催しました！



看護学校 教員
水口 沙紀

令和元年12月13日（金）、学生自治会が病棟で入院している方、外来に通院している方に少しでもクリスマスの季節を感じ、闘病意欲につながればという思いを込めたクリスマス会を開催し、ハンドベルの演奏と聖歌隊による合唱を披露しました。また同日、重心病棟のキャロリングにも参加させていただきました。

学生は少しでもよいクリスマス会にしたいと思い、早くからポスターの作成やハンドベルの練習を始めました。ハンドベル演奏は、専門の講師に定期的な習いお墨付きをもらえるまで練習を頑張っていました。歌は、今年もギターの演奏にのせて気持ちばかりのダンスも披露しました。全学年が揃う時間が少なく練習は大変でしたが、放課後声を掛け合いながら頑張った成果が表れたのではないかと思います。

各病棟順番に回っていましたが、予定時間が近づくと、各フロアの食堂には、車いすや歩行器、またベッドを移動してたくさんの患者さんが集まってくださいました。優しいベルの音色と聖歌隊の歌声に思わず涙されたり、一緒に手拍子や歌を歌ってくださった患者さんもおられ、そのような姿を見て学生も心動かされるものがあったようです。

病棟のスタッフの方々にはお忙しい中、患者さんに呼びかけてくださり、ご協力いただいたおかげで、より多くの患者さんの参加に繋がりました。改めてお礼を申し上げます。

1年後のクリスマス会も学生たちの日頃の感謝の思いがしっかりと届けられるようにもう少し工夫できたら…と思っています。

出発前、体育館でベル隊と聖歌隊の最後の合わせでの練習をしました。



ギターの音色に合わせて歌いました♪



実習で受け持たせて頂いた患者さんがきてくださいました。



地域医療 連携室だより

看護師長
西本 美香



第164回高知病診連携フォーラムについて



令和元年12月20日（金）に高知病診連携フォーラムを開催しました。医療安全研修の一環として「医療訴訟に耐えうる記録の書き方及び苦情への対応等」をテーマに森脇法律事務所 森脇正弁護士をお迎えし

講演頂きました。今回の研修では、高知市医師会と共催し日本医師会生涯教育制度履修単位取得もあり、84名の方が参加頂きました。研修にあげるケースについては、事前に質問事項を集め、これに回答していただく形式で行われ、日頃の困ったこと、疑問があったことを教えて頂くことができました。参加者から、「事例が具体的で、日常業務に即した内容のものが多く参考になった」「同一テーマで、次回またお聞きしたいと思いました」「苦情への対応等の点が特に印象に残った。電話対応等で活かしていきたい」等の感想がありました。今後、各医療機関と共同し、研修内容を活用し医療安全の視点を持った対応が行えるように取り組んでいきたいです。



第166回 高知病診連携フォーラムのご案内【日時：令和2年2月13日（木）18:30~20:00】

「消化性潰瘍の再発抑制におけるPPIの役割」●国立病院機構高知病院 消化器内科/池田 敬洋 先生

「呼吸器疾患とGERD」●奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座 教授/室 繁郎 先生

第162回 高知病診連携フォーラムのご案内（10/11台風により開催中止、順延分）【日時：令和2年2月20日（木）18:30~20:00】

「癌化学療法時の制吐療法について」●国立病院機構高知病院 薬剤部/高岡 昌司 先生

「薬剤性肺障害をめぐる最近の話題」●自治医科大学 内科学講座呼吸器内科部門 教授/坂東 政司 先生

第167回 高知病診連携フォーラムのご案内【日時：令和2年2月21日（金）18:30~20:00】

「間質性肺炎に対する包括的アプローチ～日常臨床の疑問からより良い医療を目指して～」

●徳島大学大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野 教授/西岡 安彦 先生

第168回 高知病診連携フォーラムのご案内

【日時：令和2年2月28日（金）18:30~20:00】

「医療メディエーション～対話と関係調整のモデル～」

●早稲田大学大学院法務研究科 教授 和田 仁考 先生

「傷ついた医療者へのケア～医療現場の充実が患者家族にもたらすもの～」

●一般社団法人 医療対話支援連携プロジェクト Heals 理事長/永尾 るみ子 先生

【場 所】

国立病院機構高知病院 2階地域医療研修センター

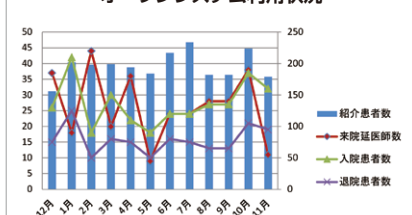
【問い合わせ先】

地域医療連携室088-828-4465

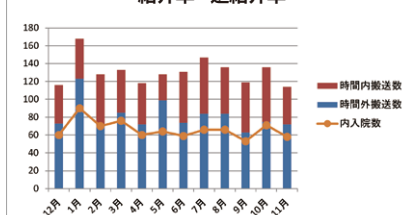
ご参加お待ちしております。

高知病院地域連携等概況

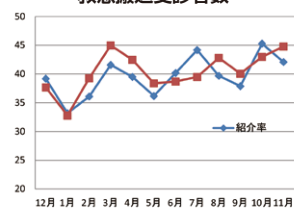
オープンシステム利用状況



紹介率・逆紹介率



救急搬送受診者数



外来診療担当医表

(令和2年1月1日現在)

■受付時間 8:00~11:00

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



独立行政法人
国立病院機構 **高知病院**

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
<http://www.kochihp.com>



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	午前 1診 ⑫	岩原 義人	山崎 隆志	井上 修志	篠原 勉 (2・4・5週休診)	
	特別外来 ⑪	松森 (糖尿病)	岩原 (血液)	松森 (糖尿病)	岩原 (内科)	松森 (糖尿病)
	午後 専門外来			化学物質過敏症 (予約制)		
神経内科		⑰ 不定期 (院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	午前 1診 ⑧	岡野 義夫	大串 文隆 (予約制)	畠山 暢生	大串 文隆 (紹介のみ)	門田 直樹
	2診 ⑥		安宅・矢野 (隔週)		町田 久典	畠山 暢生
	3診 ⑫					
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00~15:30 (予約制)	
消化器内科	午前 ⑨	林 広茂	池田 敬洋	井上 修志	岡崎 潤	池田 敬洋
循環器内科	午前 ⑦	山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後 ⑦			伊藤 いづみ 受付13:30~16:00	ペースメーカー (第2木曜)	
リウマチ科		⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)		大串 文隆 (予約のみ)		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前 1診 ①	大石 尚文	大石 尚文	井上 和男	小倉 英郎	大石 尚文
	2診 ②	佐藤 哲也	武市 知己	佐藤 哲也	佐藤 哲也	高橋 芳夫
	3診 ③	井上 和男	濱本 諒	小倉 由紀子	井上 和男	
	午後 専門外来	慢性疾患 アレルギー	神経・アレルギー 循環器 (第2火曜 医大循環器)	乳児健診	アレルギー NICU フォローアップ	慢性疾患 乳児健診
	予防接種	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)
外科 消化器外科 小児外科	午前 ⑤ ⑥	浅野間 理仁	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	金本 真美 (肝臓・胆道・膵臓外来)
	午後 専門外来	浅野間 理仁 (ヘルニア外来) 受付15:00まで	福山 充俊 (乳腺外来)		福山 充俊 (乳腺外来)	
呼吸器外科	午前 ⑧ ⑦		先山 正二 日野 弘之		先山 正二 日野 弘之	先山 正二
	午後 ⑧			本田 純子 受付15:30まで		本田 純子 受付15:30まで
乳腺科	午前 ⑤	本田 純子		本田 純子		
	午後 ⑧			本田 純子 受付15:30まで		本田 純子 受付15:30まで
整形外科	午前 ①	福田 昇司 (1・3・5週のみ 予約制 2・4週 通常診察)		川口 真司	福田 昇司	合田 有一郎
	②	川口 真司 (2・4週休診)				
	午後 ②	骨粗鬆症 (予約制) 13:00~15:00			田村 竜也 (予約制)	
脳神経外科	午前 1診 ⑧			非常勤 9:00~11:00 (予約制) 予約外の方はお問い合わせ下さい		
皮膚科	午前 ⑬	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌尿器科	午前 ⑨	渡邊 裕修	島本 力	佐竹 宏文	渡邊 裕修	佐竹 宏文
	⑦	佐竹 宏文 診察開始 10:00~				島本 力 診察開始 10:00~
産科	午前 ⑳	滝川 稚也	滝川 稚也	今泉 純貴 1ヶ月検診	今泉 純貴	産科特殊外来 (予約制)
	午後					
婦人科	⑳	木下 宏実	今泉 純貴	木下 宏実	滝川 稚也	木下 宏実
	午前		クーポンがん検診 (予約制) 10:30~11:30		クーポンがん検診 (予約制) 10:30~11:30	
	午後					思春期外来 (予約制)
眼科	午前 ㉓	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前 ⑯	中野・内藤	中野・内藤	中野・内藤	中野・内藤	中野・内藤
放射線科		塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文

※ 市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中 外科外来にて行っています。診察も希望される場合は事前に外科までお問い合わせください。

※ 当日の受付は午前11:00までとなっております。